

Kagoshima Shinkin Bank

IKI IKI

いきいき
創刊号
2015

人、ふれあい、街、いきいき。

- かしん経営大学公開講座
「まち・ひと・しごとづくり講演会」
- KEY PERSON ～始良市市長に聞く～
- 「つなぐ力の発揮」かしんの地域貢献活動

人、ふれあい、街、いきいき。
かしん 鹿児島信用金庫





contents

■ はじめに	2	鹿児島信用金庫 理事長あいさつ 情報誌「IKIIKI～いきいき～」創刊にあたって
<hr/>		
■ これまでも これからも	4	鹿児島信用金庫の地域社会に対する思い
	6 ～ 9	かしん経営大学公開講座 「まち・ひと・しごとづくり講演会」
<hr/>		
■ KEY PERSON	10 ～ 13	始良市市長に聞く
<hr/>		
■ Pick Up 企業	14	株式会社マコセエージェンシー
	16	株式会社南日本総合サービス 株式会社南日本ビジネスサービス
	18	株式会社てまひま堂
<hr/>		
■ かしん ^{もり} の杜	20 ～ 23	「つなぐ力の発揮」かしんの地域貢献活動
<hr/>		
■ かしん最新 New's	24	地方創生への取り組み 枕崎の鰹節をフランスへ MAKURAZAKI KATSUOBUSHI
<hr/>		
■ KASHIN REPORT	26	お取引先とのつながりについて
	27	アイホールビルの紹介

情報誌「IKIIKI ～いきいき～」創刊にあたって

皆様には、平素より鹿児島信用金庫に格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございます。日頃のご愛顧とご支援を心から感謝申し上げます。

当金庫は、相互扶助の精神に基づく協同組織金融機関として、地域経済の発展のため「かしんの杜」を中心とした様々な活動を行っております。また、本年より「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にかかる新たな取り組みとして「かしん経営大学公開講座」を各地方自治体で開催し、総合戦略策定のきっかけづくりとして、それぞれの特性に合った独自の提案をさせて頂いております。

今回、当金庫の取り組みや様々な情報を会員の皆様方をはじめ、多くの方々に知って頂き、地域経済の繁栄にお役立て頂きたく、情報誌「IKIIKI」を創刊いたしました。本誌に掲載されている情報の中から一つでも皆様のお役に立つ情報が提供できたら幸いに存じます。

当金庫は「人、ふれあい、街、いきいき。」をモットーに、地域とともに歩んでいく金融機関として、様々な情報や各種サービスを提供してまいりますので、より一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



平成27年10月1日
鹿児島信用金庫 理事長

後藤 孝行

信用金庫という金融機関、 据野金融の役割、 地域社会に対する思い。

■すべては 地域の活力に 応えるために

急激な人口減少・超高齢化社会は、これからも逆風としてみられるが、信用金庫は特性（中小企業専門性・協同組織性・地域性）を生かして、これに立ち向かうべく、様々な取組みを行っています。

地域の経済活力の維持には、金融機関が本来の役割を全うし、地域に根ざしていくことが、唯一の原動力となります。

地域とのつながりを強化することを目的とした「かしの杜」という地域

貢献活動を行っています。相互扶助・非営利制度を基本理念とする信用金庫の原点をふまえ、地域社会から信頼される協同組織金融機関を目指しています。

■地域と一緒に 中小企業・小規模企業 と一緒に そして住民と一緒に

— これまでも これからも 変わりません —

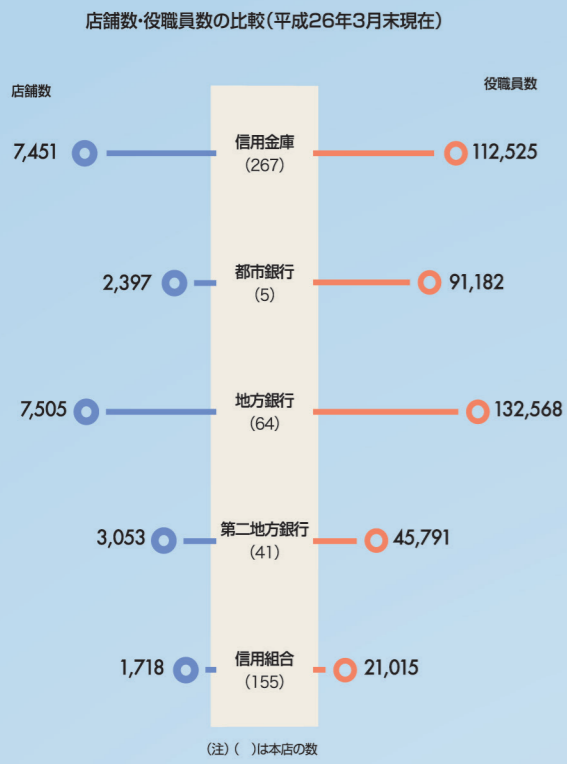
信用金庫は地元経済の活性化を願っています。地元で集めた預金は地元で融資する相互扶助をモットーとする金融の役割で「お金」と「人」を地

みなさまと近接性・親密性・信頼性を通して、相方向的なつながりを大切にして、これからも相互扶助にこだわります。

■信用金庫の セントラルバンク

信用金庫には、全国にある信金の経営基盤の強化・業務機能の補完、信用力の維持・向上・市場運用力の強化などを行う系統金融機関があります。それが信金中央金庫（信金中金）です。

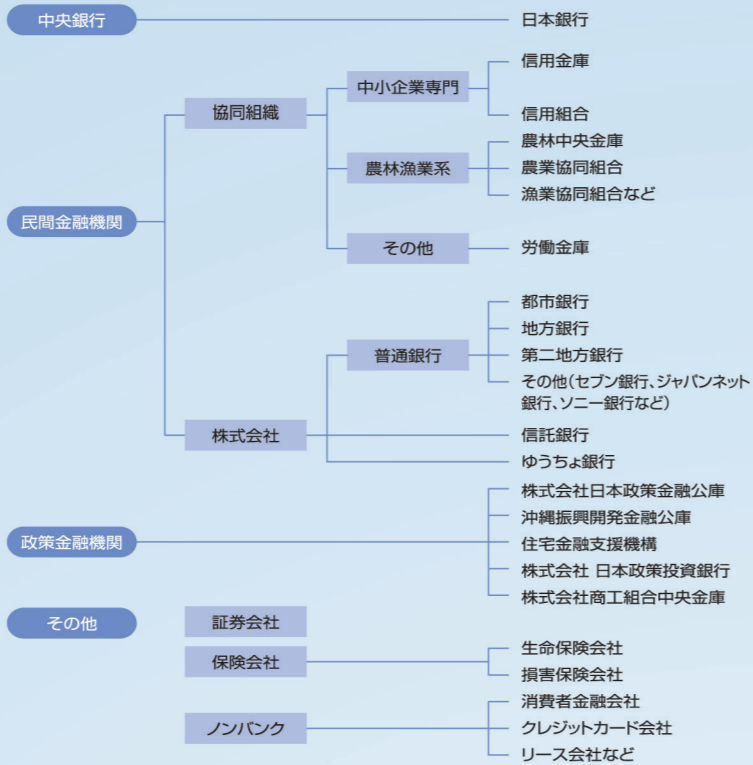
「信用金庫の中央金融機関」として



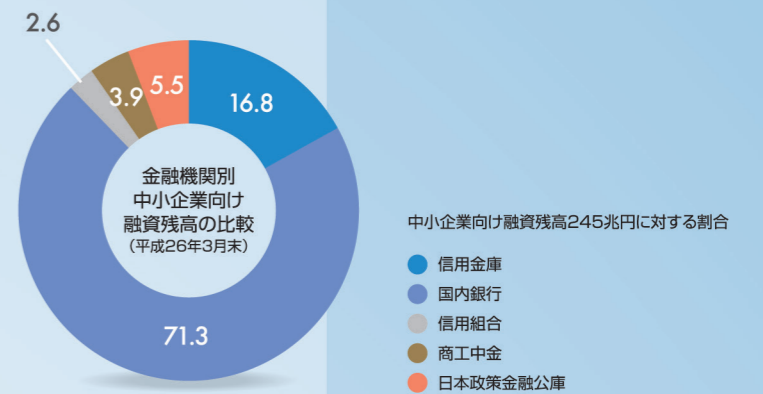
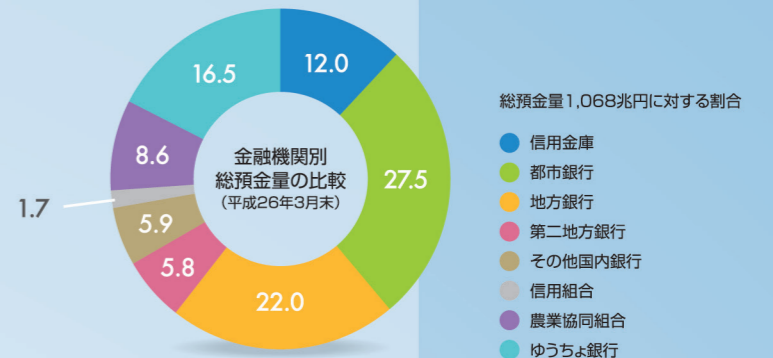
平成24年3月の総資産は31兆円を超す日本有数の規模と効率性を有しています。

■これまでも これからも

お客さまの信頼に応えるために鹿児島信用金庫は大正11年創業以来、90数年にわたり、時代は変わり、企業もあり方、人のあり方は変わりましたが、地域金融への使命はいささかも変わりません。この情報誌はこのコンセプトをもって発刊します。



地域の活性化は金融機関のビジョンとも大きな関係があります。各金融機関は「地方の創生」にさまざまな取り組みをしています。



■これからも 相互扶助に こだわります

県外・域外金融が活発化するなかで金融機関は相応の金利を求め、一方で金利ではない付加価値の充実を図っていかねばなりません。



まちとひとと しごとづくり 講演会

— 地方創生について考えよう。—



異業種でつくる事業計画。
具体的例も発表し、
ひとつのきっかけにしてもらう。

かしん経営大学公開講座
では、実際にかしん経営大学
で作成された事業計画プラン
を併せて発表致しました。
発表された事業プランは、鹿
児島県で活躍されている様々
な業種によって構成されたメ
ンバーによって作成されたもの
です。

民とが一体になり考えていく
ことが大切と考えています。
かしん経営大学では、異業
種による企業にて構成され、
事業に対しての考え方や構造
の違いがある中で、たくさんの
アイデアを出し作成されたプ
ランになります。
このノウハウは、各市町村企業
住民とが地方創生事業を考
える一つのきっかけや手段に成
り得るのではと考えています。



かしん経営大学卒業生による事業計画プランの発表

事例 No.2 鹿児島産のイタリア野菜の特産品に
「万能調味料“なんでもイタリアン”の開発」



チーム名：オールフード

- | | |
|--------------|--------|
| 学校法人鹿児島学園 | 正村 幸太郎 |
| 株式会社薩摩つけもの工房 | 後藤 浩孝 |
| 株式会社 ING | 成尾 嘉敏 |
| 株式会社大弘 | 坂之上 拓郎 |
| 世紀産業株式会社 | 原口 美津子 |
| 南薩食鳥株式会社 | 福元 順一郎 |
| 上園食品株式会社 | 堂園 春樹 |
| 有限会社マルイチ商事 | 旭爪 章裕 |
| 沖永良部島珈琲研究所 | 東 さつき |

正村 幸太郎 Shomura Kotaro
学校法人 鹿児島学園 広報企画室長

鹿児島でイタリア野菜「ワイルドロケット」を生産している事業者がチームに在籍。異業種で商品開発の事業プランを作成。

材料・商品原価から販路先、販売方法まで計画。卒業式の発表時には、実際に商品として現物を制作。ワイルドロケットを使用した調味料は、和洋中と食を選ばず「なんでもイタリアン」にしてしまう商品。鹿児島産のイタリア野菜という着眼点が素晴らしい。



事例 No.1 実際にある遊休地での事業プラン
「森に遊ぶ・森に学ぶ・森に癒される
～人と森の再生」



チーム名：Re:forest

- | | |
|-------------|-------|
| 鹿児島森林組合 | 大隣 弘幸 |
| 鹿児島県森林組合連合会 | 大田 亨 |
| ヤマグチ株式会社 | 山口 秀典 |
| 株式会社隆成 | 畠中 隆 |
| 株式会社永田林業 | 川北 恵美 |
| 株式会社大海技建 | 笹原 誠 |

山口 秀典 Yamaguchi Hidenori
ヤマグチ株式会社 常務取締役

鹿児島県に実際ある遊休地の所有者からプラン依頼があり作成されたプラン。

遊休地 6,000 坪を全国でもまだ珍しい近代化されたキャンプ場の提案。キャンプへの心理的障壁からも分析、また周辺施設からの売上計画等も行ない、鹿児島にとっても観光施設として、県外からの観光客の増加、また地元からの顧客獲得も見込める非常に魅力ある事業計画になっている。



“まち・ひと・しごとづくり”は三位一体

かしん経営大学とは
鹿児島信用金庫は、長年地元の中
小企業の人材育成に取り組み、その
一環としてかしん経営大学を開校
してきました。
経営のプロから学ぶ講習形式から
異業種によるグループワークで事業
計画書を作成し、発表の場を設け
るなど、企業活動を行なう上で必
要な知識とスキルを身につけるのが
目的です。
鹿児島県内に約800名の卒業生
があり、大きな成果をあげた学び
の場となっています。

政府が「まち・ひと・しごと創生法」
を可決し、全国的に地方創生をテ
ーマに動きが加速してきています。
そこでこの度、始良市をスタートに
霧島市、いちき串木野市、出水市、
指宿市と各市町村にて地方創生
「まち・ひと・しごとづくり講演会」
を開催致しました。
各市町村の職員の皆様、中小企業の
皆様、当金庫のハッピー会の皆様、一
般の皆様にご出席頂き、地方創生につ
いて考える一つの機会となりました。

かしん経営大学 公開講座の開催

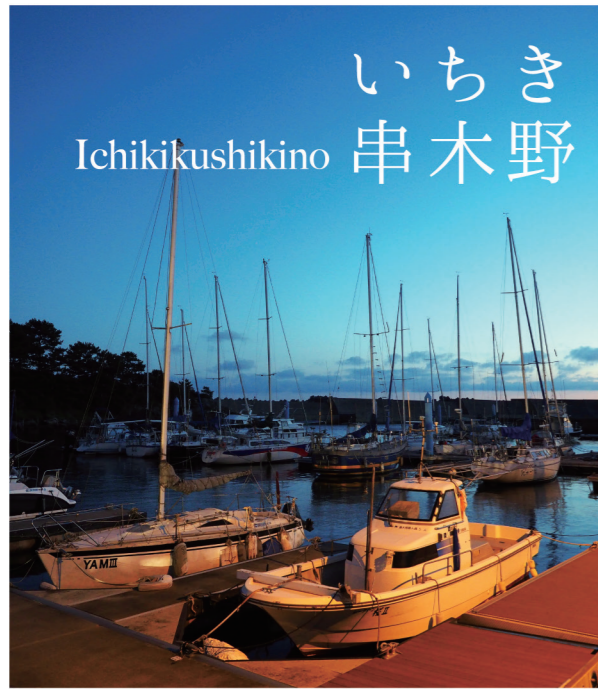
始良市・霧島市・いちき串木野市・出水市・指宿市にて開催。



宇都 幸雄
かしん経営大学主任講師
株式会社創造経営研究所
代表取締役

講演では、かしん経営大学主任講
師を務める宇都幸雄氏に講演頂き、
国の地方創生についての説明や、必
要な考え方や具体策を、かしん経
営大学で培われたノウハウを元に各
市町村に合わせた形で講演頂きま
した。また合わせて、実際にかしん
経営大学で学ばれた卒業生4組の
代表者より異業種で作成された事
業プランを発表。具体的に事業プラ
ンを発表して頂く事で、参加者の皆
様にもより分かりやすく、一つのき
っかけになった講座となりました。
最後に、宇都幸雄氏による各市町
村へのプランの提案や、今回の地方
創生は最後の地方の時代を実現す
るチャンスであること、県や市町村、
企業、そこに暮らす地域住民が一体
となって、まち・ひと・しごとづくりに
取り組むことが重要であるという
ことをお話されました。

かしん経営大学の ノウハウを 元にした講演



いちき
Ichikikushikino 串木野



いちき串木野市

平成27年7月9日開催
いちきアクアホール

いちき串木野市市長も参加されました。参加された方からは、今回提案したプロジェクトについて、すぐにでも現実できるのでは、との意見も頂きました。



Aira 始良



始良市

平成27年6月5日開催
始良市始良公民館

始良市役所、始良商工会、森林組合より多数参加頂き、隣接都市との連携を重視した始良市の将来のビジョンについて提案を行いました。



霧島市

平成27年6月19日開催
国分シビックセンター内 国分公民館

霧島市は総合戦略策定に向けいち早く組織を設置しており、地方創生への関心も高く、市の職員が多数参加されました。



Kirishima 霧島



出水市

平成27年7月23日開催
出水市中央公民館

市役所職員をはじめ、地元の多種多様な業種の方々に参加されました。新幹線の停車駅や出水平野などの地域の特色を活かした提案を行いました。



Izumi 出水

公開講座の
5つのポイント

1 かしん経営大学の
意義と実績

かしん経営大学のノウハウが今回の地方創生事業を推進して行く上で何か一つのきっかけになるのでは、との考えからこれまでのかしん経営大学の意義と実績を紹介。

2 国の地方創生事業を
理解し、みんな
共有化する

今回の地方創生は、県や各市町村だけでなく、その地域で活動する企業、そして、その地域に暮らす住民が、国の地方創生事業を理解し、共有化、何より参加することが重要である。

3 国の方針に沿った
地域独自の成長戦略を
策定する

国の創生総合戦略を理解し、従来からある手法ではなく、各地方の現状を客観的に把握し、実態に沿った独自の戦略を策定することが重要である。

4 「まち・ひと・しごと」
づくり」は三位一体

「まち・ひと・しごと」づくりにおける各政策がバラバラに行なわれることなく、自立的かつ継続的にそれぞれが好循環を生むように取り組む事が重要である。

5 具体策提案

公開講座では、各市町村毎の地域性を活かした(地域特性、各特産品、観光資源など)具体策を提案。また、かしん経営大学で作成された事業プランを発表するなど、地方創生事業を進める中で、一つの参考になるような形で開催。

かしん経営大学公開講座では、このように、かしん経営大学のノウハウを交えながら、地方創生に必要な理解を促進すると共に、具体的に進めていくための講演を開催しました。たくさんの方の参加者にも改めて地方創生について考える機会になったことと思います。

始良市の考える地方創生。

始良市の現状と未来

始良市市長・笹山義弘氏に聞く。始良市の考える地方創生とは。



KEYPERSON

内田 健一郎 氏
UCHIDA KENICHIRO

鹿児島信用金庫 業務執行役員
地域創生・活性化担当

笹山 義弘 氏
SASAYAMA YOSHIHIRO

始良市市長

宇都 幸雄 氏
UTO YUKIO

かしん経営大学主任講師
(株)創造経営研究所 代表取締役

宇都 本日は、お忙しいところお時間をいただき、本当にありがとうございます。

この度、始良市のご後援を頂き「かしん経営大学公開講座」を始良市にて開催させて頂くことになりました。その前に市長にお話をお聞きしたくお伺いいたしました。どうぞよろしくお願ひ致します。

笹山市長 こちらこそどうぞよろしくお願ひ致します。

宇都 まず、はじめにお聞きします。始良市は始良町と加治木町そして蒲生町が合併して始良市となったわけですが、外部の私たちから見ると、まだまだ加治木町と蒲生町というイメージが強く残っているような気がします。現在は始良市としての一体感はどうなんでしょうか。

笹山市長 確かに平成の大合併において、難産のうえ始良市は誕生しました。それぞれの歴史や文化の違いが町の個性を強くしていると思います。しかしそれぞれの

個性は大事にしながら、始良市としてのまちづくりを進めてきました。おかげさまで今では始良市は人口も増えて、一体感も強くなってきました。

内田 そうですよ。他のほとんどの市町村が人口減の中で、始良市は逆に人口が増えていますよね。

笹山市長 ええ、始良市は鹿児島市と霧島市に隣接しています。ですから例えば、隣の京セラのような大企業等の誘致をして人口を増やすのではなく、鹿児島市と霧島市のベッドタウンを目指しています。

宇都 なるほど、賢明な策ですね。ところで、今、国中で地方創生事業への取り組みが始まっていますが、市長の今回の地方創生事業へのお考えをお聞かせ下さい。

「地方創生」とは「原点」にかえるということ

笹山市長 何と言いましようか。結局「コンプスの卵」みたいなものではないですか。国はいろいろなことを言っていますが、結局原点に返るといことだと思えます。つまり地方創生で玉手箱みたいになにか生まれるというイメージがある

るようですが、そうではなくて、まちをどうして残していくか、成長させていくかを原点にかえて考えておろすことが地方創生だということなんです。

人口が減っていくまちは、単純に人口を増やそうとする考え方。辺倒ではなく、過疎地を生かして、農業体験や林業体験の場に再生する等です。

宇都 なるほど、逆転の発想ですね。

笹山市長 都会にはサラリーマン生活をリタイヤされた方達もたくさんいらっしゃるわけですから、そのような方達の場づくりもありますね。

宇都 そういう意味では、今度の地方創生事業は市町村の知恵比べとも言えますね。

笹山市長 当然他の市町村とはライバル関係になりますね。ライバルとして切磋琢磨することは良いことだと思います。そして二方面は、国が言っているように連携も必要になります。

宇都 全く同感です。近隣市町村と連携するには連携する市町村同士が長期ビジョンを共有することが必要だと思います。

笹山市長 そうですね。

宇都 市長、今回初めて始良市で実施する「かしん経営大学公開講座」で提案したいことがあります。聞いて頂けますか？

笹山市長 ええ、もちろんです。

始良市の持つポテンシャルは大きい

宇都 私は、始良市は大きなポテンシャル（潜在可能性）を持っていることに気づきました。そのひとつの理由は、市長も先ほどふれられたように、鹿児島県のダントツ第一位の人口都市、鹿児島市と二位の霧島市の結節地であることです。

次に鹿児島空港に近接しているこ



身の丈の政策を

笹山市長 桜島と錦江湾をまちづくりにもっと生かすということには大賛成です。しかし私の政治信条として「身の丈の政策」というのを大事にしています。

あまり知られていませんが、有機農業に従事している人は鹿児島県で始良市が一番多いのです。日本の食文化が世界的に見直されている今日、始良市の農業と共に食文化の見直しを図り世界に情報発信していきたいと考えています。ですから、始良市の農業従事者の

皆さんには、始良市を有機の里に
しなさいと言っています。

内田 有機の里づくりは、人口減の中山間地域活性化策になりま
すね。

笹山市長 ただ、作る前に出口づくりとか、まず販路を確保しなさいと、いつも指導しています。有機の里として安心安全な食材を都会のお店等に提供できるようにしなければ良いのです。

それに始良市は、恵まれた資源がありますので、いろいろなものと組みあわせることによって、創業や第二創業に繋げることができるのです。例えば、食と医療を結び付ければ「食のメディカルシティー」にも

なれるのです。

宇都 さすがですね。市長はもともと経営者でいらつしやるので、頭が柔らかいんですね。

笹山市長 いやいやそんなことはありません。市長（私）はテゲテゲです。皆さんの意見を聞いているだけです。

最も必要なのは わくわくする 大きな夢のある 長期ビジョン

宇都 確かに市長がおっしゃる通り、現実を見据えた身の丈の政策ということにも大いに賛成です。しかし、今の時代に地域の活性化や企業の再生にとって最も必要なことは、正しい世界状況の認識と自己認識に基づく「長期ビジョン」だと考えます。市民や職員がわくわくするような、大きな夢のあるビジョンが、その実現に向かって努力を重ねる力を与えてくれます。

始良市民である ことに自信を持つ ことが大事です

笹山市長 そうですね。それはよくわかります。参考にさせていただきます。これは始良市の人達はずっと自信を持つべきなんです。先ほど言いましたが人口は増えていても、犯罪件数は減っています。安心安全な街は、地域力の象徴なのです。

私は加治木町長をしていて、始良市長になったのですが、始良市民に「貴方はなぜ始良市に住んでいるのですか？」とよく聞くことがあります。すると多くの人が「交通が便利だからです」と答えます。始良市に対する愛着心がまだまだ少ないなと感じています。それは始良市の良さをまだ知らないということだろうと思います。

宇都 始良市民の人達はずっと始良市の本当の素晴らしさを知って、自信を持つてほしいですね。実は「地方の時代」という言葉が



笹山市長 始良市は良い風が吹いています。職員をはじめとして、始良の皆さんがきつと頑張ってくれると思います。

使われ出したのは、確か1978年だったと思いますが、神奈川県知事須賀健一が初めてと記憶しています。あれからすでに40年近くたちました。その間、大分県平松知事の「二村一品運動」や、熊本県の細川知事の「日本一運動」が取りざたされましたが、「向に地方の時代は、実現することはありませんでした。ぜひ、今回の地方創生事業を、始良市が全国のモデルとなるような事業にして文字通り地方の時代を築いて下さい。」

私は今回の地方創生事業が地方の時代を実現する最後のチャンスだと思っています。その成り立ちや、良し悪しは別として。

宇都 最後になりますが、この度鹿児島信用金庫では、これまで18年間にわたり地域の経営者のための経営塾である「かしん経営大学」を開催してきました。卒業生が県内に約800名を数えます。そして、本年度は、市町村の地方創生事業に貢献すべく始良市をかわきりに「かしん経営大学公開講座」を開催することになりました。どうぞよろしくお願い致します。



宇都 本日は本当にありがとうございました。

笹山市長 こちらこそお願い申しあげます。

笹山市長 金融機関の様々なご支援がぜひ必要ですので、こちらこそどうぞよろしくお願ひします。ただ、一つの金融機関だけでなく、鹿児島県の全部の銀行に応援をもらいたいと思っています。大いに切磋琢磨しましょう。

内田 鹿児島信用金庫執行役員として、地方創生専任担当を命ぜられておりますので、何でもご協力するつもりでおります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

笹山市長 こちらこそお願ひ申しあげます。

宇都 本日は本当にありがとうございました。

DATA

設立 昭和63年10月1日
 本社 鹿児島市上之園町25-33
 macosePARKSビル
 事業拠点 東京本部・大阪支店
 名古屋支店・熊本事務所
 従業員数 127名(平成27年7月1日現在)
 事業内容 総合広告代理店
 総合広告計画の企画・立案・実施
 テレビ広告・新聞広告・折込広告
 インターネット広告・ラジオ広告
 雑誌広告・交通広告
 屋外広告(看板)・求人広告
 オリジナル会葬礼状の作成
 会葬パネルの作成
 フューネラル関連商品のご提案



▲メディア事業部のある macose 第2ビル(上之園町)



▲macose 本社ビル(上之園町)

「想いを伝える」を
 基本理念に進化を
 続ける

広告業を営むかたわら、12年前にオリジナル会葬礼状の作成事業を始めた。遺族に故人の生前のエピソードなどを電話で取材。定型の文章ではなくオンリーワンの文章で故人をしのんでもらう。2014年、日本で127万人が死亡するなか、約11万件の利用があった。五十嵐社長は鹿児島県出身。東京の大学でデザインを学び、30歳のとき鹿児島市で広告代理店を立ち上げた。血縁関係を大事にする鹿児島県で盛んだった新聞の計報広告の制作を始め、地元紙に掲載される計報広告の7割を請け負った。しかし、新聞の部数減少とともに計報広告の需要も縮小。会社の将来を見据え着目したのが、葬儀の参列者に渡される会葬礼状だった。「故人の人生や遺族の思いが伝わる一枚になるのでは」と思い立った。担当者は「お人柄や性格などを教えていただけませんか」とか「丁寧な語り口で質問。取材から2時間以内で原稿を仕上げる。スタッフの平均年齢は33歳と、若い「人財」が多く活躍している。



▲オリジナル会葬礼状の礎となったお悔やみ広告(南日本新聞)



▲本社2階の壁面には創業当初から今日まで大切なご縁をいただいた皆様の写真を加工した絵画が飾られている

会葬礼状の制作スタッフを採用する際に重要視するのは、文章力があるかどうかよりも「徳のある人間かどうか」短い文章で共感と感動を覚えてもらうには、文才よりも感性の豊かさが大切なのだという。個々が持つ力をより輝かせるため社内研修にも力を入れている。表現力を高めるため、スタッフ自ら考えたあらゆる切り口の勉強会を開き、外部講師を招いての講演会も頻繁に行っている。

「遺族が抱える『悲嘆』を少しでも和らげたい」日々遺族と向き合い続けるスタッフの思いは熱い。

社員さんにズーム

グリーンサポート部 人事部長 堤由紀子さん

私が初めてオリジナル会葬礼状を手にとったのは、前職の同僚のお子さん(当時)が亡くなった時でした。病氣とは知っていましたが、実は出産前に心臓が悪いと分かっていたことや小さな身体で何度も手術を乗り越えたこと、走り回る姿を見られただけで幸せだという両親の思いが綴られていて、皆で涙しながら読んで感動しています。

父を敬う息子の思い、母を慕う娘の声、祖父へ向けた孫の感謝の気持ち、会長に誓う社員の言葉。はがき大の会葬礼状には、無限の思いが込められています。

電話の向こうの遺族様の話に耳を傾け、時に笑い、時に涙を流しながら、ほんのひととき在りし日のお姿を共に偲ぶ。他にはない仕事だからこそ得られる感動とやりがい、この仕事の一番の魅力だと、私はそう思っています。



▲ランチは社員が作り、社員が食事する macose KITCHEN

起業を重ねて事業拡大 会社の目線はいつも全国展開

株式会社 マコセエージェンシー

遺族の想いを紡ぐ 会葬礼状で日本一



株式会社マコセエージェンシー 代表取締役 五十嵐 芳明氏 Igarashi Yoshiaki

法政大学大学院教授 坂本光司先生が絶賛「世界に自慢したい会社」

遺族の思いを「温もりのある言葉で編む」そして映像(DVD)で伝える。総合広告の企画・立案・テレビ広告、そして地元新聞広告などの主業務より、隣接する異業務として葬儀の会葬礼状を制作する業務へ拡大。今やこの分野で日本一企業となった。文章の才能より「徳のある人間かどうか」をモットーに、思いを届ける舞台は若いスタッフを中心とした活気溢れる職場。社長はいつも舞台の袖で日本一の企業を企画・制作。そしてさらに新しい分野にも挑戦。まだ終わらない… macoseプロジェクト。



▲オペレーションルーム(本社)



▲第2オペレーションルーム(本社)



▲メディア事業部(第2ビル)



▲経理 総務部(本社)

DATA

設立 昭和36年7月12日
 本社 鹿児島市小川町15-1
 従業員数 1,340名 (平成27年4月現在)
 事業内容 ビルクリーニング
 マンション管理
 建築設備管理
 ホテルレストラン業務
 警備保安サービス
 医療請求事務
 人材派遣業務
 受付電話交換業務
 レンタルマットモップ業務
 PFI事業 指定管理者



まち・ひと・しごとづくりで55年 鹿児島島の経済をリーディング

株式会社 南日本総合サービス
 株式会社 南日本ビジネスサービス 他

ビルを活性化し必要な人材を派遣し
 サービスをモットーとする
 総合ビルメンテナンス業



株式会社南日本総合サービス
 代表取締役社長

吉田 健朗氏
 Yoshida Kenro

創業者は現社長の祖父吉田勇蔵氏。
 吉田勇蔵氏は、南日本新聞社社長を退任後ビル管理会社を設立。
 業務のアウトソーシングという時流にもり順調に成長、その後
 吉田勇蔵氏の二男吉田守氏が社長に就任し、業容をさらに拡大。
 昭和61年には人材派遣のパイオニア(株)南日本ビジネスサービスも設立し、
 こちらも現在では売上・シェアともに県内NO. 1の人材派遣会社に成長。
 基幹業務のビルメンテナンス事業はもとより、ホテルレストラン事業や
 病院の医療請求事務などを行うメディカル事業など事業領域も拡大。
 まち・ひと・しごとづくりに創業以来55年間真摯に取り組んでいる。

PFI事業

指宿地域交流施設整備等事業 (道の駅いぶすき) を皮切りに
 ・鹿児島大学環境バイオ研究棟等改修施設整備等事業
 ・鹿児島県警察学校整備等事業
 ・鹿児島市新鳴池公園水泳プール整備・運営事業
 と多くの鹿児島県におけるPFI案件に関わり、長年にわたり
 ビルメンテナンス業務で蓄積した技術やマネジメント能力を
 活かし新しい分野にも積極的に取り組んでいる。



1961年に南日本放送が高麗町
 に放送会館を建設するにあたり、
 MBCとMBCサービスの出資も
 頂きその放送会館のビル管理を行
 なう会社「鹿児島ビルサービス」と
 して設立。その後、社名を「南日本
 総合サービス」と変更し現在に至
 る。

放送会館のビル管理という目的で
 設立したが、お客様のニーズにあ
 わせ応えていくうちに、各種施設
 の管理・清掃から始まり電話交換
 人材派遣、病院の医療請求事務、マ
 ンションの管理業務等と高度経済
 成長やお客様の業務アウトソーシ
 ングの流れにも乗り、順調に拡大
 してきた。

平成17年からは、鹿児島市小川町
 にあるビジネスホテル「アーバン
 ポートホテル鹿児島」を取得し、ホ
 テル事業も行なっている。

マンションの管理業務は、分譲マ
 ンションの増加とともに順調に管
 理戸数も増えてきておりマンショ
 ンのトータルメンテナンスから管
 理組合運営の事務委託、資産価値
 向上のアドバイス等、総合的なサ
 ポートを行なっている。マンショ
 ン管理業者の全国組織(二社)マン
 ション管理業協会に所属する唯一
 の鹿児島に本社を置く会社という

ことご用命いただくケースも多
 くある。

「ビルは第二の自然でありたい。」
 —お客様に自然のようにどこか温
 かみのある快適な環境を提供する
 ことによりお客様が繁栄されるこ
 とを目標に、日々精進している。

「人材教育に力を」

常にお客様の頼もしい最高のパ
 トナーで在り続けたいと考えてい
 る。
 全ての業務において従業員が提供
 するサービスを通して、お客様満
 足をいただくことを目指している。
 そのため高品質なサービスの提
 供ができるように従業員教育・研
 修を徹底して行い、育成に力をい
 れている。

笑顔や挨拶といった基本的マナー
 から各種業務に関連した資格取得
 を会社としても最大限バックアッ
 プしており、より高いスキルを
 もった業務のプロフェッショナル
 の育成に努めている。
 また、バックアップ体制には常に
 気を配っており、個々のスタッフ
 とのコミュニケーションを万全に
 し、最大限の対応ができる体制を
 維持することがお客様の信用にも
 繋がると考え、人材教育に力を入
 れている。

社員さんにズーム



ビジネス部 瀧口結さん
 私は(株)南日本総合サービス・ビ
 ジネス部に所属し、主にインフォ
 メーション業務を中心にお仕事し
 ています。インフォメーション業
 務とは、受付を中心としたお客
 さまの対応、電話対応を行います。この
 仕事の特徴は、さまざまなお客
 さまとコミュニケーションをはかる機
 会が多いことだと思っています。
 顔なじみのお客さまや初めてお会
 するお客さまも多くいらっしゃいま
 す。そのすべてのお客さまへの確
 信を持って対応できるように日々
 心がけています。
 お客様一人ひとりとかわる時
 間は決して長くありませんが、そ
 の信頼関係が築けたり、喜んでい
 ただいた瞬間にインフォメーション
 業務のやりがいを感じております。
 サービス業は「目で見える実績」
 というものはあまりないかもしれ
 ませんが、これからお客さまと心
 が通う瞬間を大切に頑張ってい
 たいと思います。



▲ビジネス部所属 瀧口結 現在22歳
 新卒入社2年目です

DATA

設立 平成14年4月
 本社 鹿児島市唐湊4-17-1
 従業員数 385名(平成27年7月現在)
 事業内容 健康補助食品の製造・通信販売
 にんにく卵黄 229-55
 (ニンクゴゴ) しらす洗顔てまひま美人
 その他



▲お話を伺った西信幸さん

年頭の言葉に「ありがとうでいっぱいな花園づくり」を掲げ、多様な年齢のスタッフがバランスよく構成される「花園経営」を実現することが大切だと考えている。

「年齢別にいろいろなひとでバランスよく構成された花園にしたいですね。40歳になれば40歳の仕事ができるような人財に育ってもらいたいと思います。そのためには常に新しい感覚を磨き、新しいポストをつくる仕組みがなければなりません。営業だけでなく、経営がわかるだけでもダメ。花園の花は私たちが常にきれいにしておかないと現状維持どころか雑草が茂ってしまいます。汚い花園にはお客様は来ていただけませんが、きれいな花園には来ていただけると信じています。雑草が茂らないよう手入れを怠らずにこまめに雑草を取り除き、新しい種をまき続けることが必要です。行動の手入れ、心の手入れを怠らずこれからも花園経営を目指し続けます。」と、社長は話す。

経営計画書とフィロソフィ、ランクアップノートというツールを活用しながら人財教育を行っており、また新しい

あくなき本物への追求。
 本物への追求は、
 花園経営を目指す
 ひとづくりにも
 活かされている。

世界最先端の品質管理と製造工程をオープンに。安心と安全の追求。

△製造工程をオープンに、14000人が工場見学に参加▽
 日置工場では、てまひま堂の主力商品である「にんにく卵黄229-55(ニンクゴゴ)」を製造。胃で溶けずに腸で溶けるカプセルを使用することで、飲んだあとに嫌な臭いがする心配をなくした。にんにくは青森県七戸産を100%使用、卵は霧島たまご牧場の有精卵を100%使用し、原材料にもこだわっている。また、日置工場では、製造工程をお客様に公開して工場見学を実施。これまでに14000名の方が工場見学に訪れている。カプセルの中に何がはいっているか知ること、安心して「にんにく卵黄229-55」を服用していただける環境づくりに取り組んでいる。

△米GMP登録▽
 2014年12月11日付で米国の健康補助食品原料の適正製造(GMP)

プロジェクトを多数立ち上げ、若い社員にプロジェクトリーダーを任せることで、多くの成長の機会を与えている。全社員の物心両面の幸福を提供することが経営理念である「あくなき本物の追求」にもつながると信じている。

社員さんにズーム

製造課 西信幸さん

現在、日置工場で製造から発送までを行っています。直接お客様の口に入るものを作っているため、厳しい品質規格のある自社工場で安心して飲みたいだけの商品作りを常に心がけています。お客様のためにと思うと、なんでも頑張れます。

また工場見学にいらっしゃるお客様へ広報の仕事も任されています。「工場見学楽しかったよ！これなら安心して飲み続けられる！」そう言っていたときはとても嬉しくて、またお客様の溢れんばかりの笑顔にいつも元気をいただいています。

「当社ではこれからも、お客様の健康づくりのお役に立つために、スタッフ一同力を合わせ、安心・安全で高品質な商品づくりに取り組んでまいります。」

に登録。世界最先端の品質管理認証を受け、より安心・安全の確保ができ、今後も包み隠しのない情報開示をしていく考え。

時代に合わせて創業 健康を届ける“幸せ配達人”

株式会社 てまひま堂

カプセルの中身は見えませんが『本物』であるかを工場見学で見れる



株式会社てまひま堂
 代表取締役社長
 吉岡 靖雄氏
 Yoshioka Yasuo

社長の想いがたくさん詰まったカプセル

- ①仕事を好きになる ②愉しんで仕事に取り組む
 - ③誰にも負けない努力を行う ④利他の心で物事を判断する
- 時代の動きに合わせて、変化させながら今のてまひま堂に至る。

カプセルの中身は「手間と時間(ひま)をかけて」心通わせる本物を!! 吉岡社長と語ると自然と幸せを感じる。心をつなぐ 気持ちを伝える 笑顔をつくる 社長の信念が見えてくる。そして社員385名、工場見学は14,000人を越えた。まさに“まちづくり・ひとづくり・しごとづくり”てまひまかけて 願かけて今の会社を創った。



「地域創生・活性化」の実現が期待されます かしんビジネスチャレンジプラザ

「かしん経営大学」卒業生のフォローアップと県内の中小企業活性化のための経営者育成ならびに創業(起業・新規業種への参入含む)を支援し、多彩なビジネスを創造することで地域産業の成長に貢献することを目指して、「かしんビジネスチャレンジプラザ」事業を行っております。

かしんチャレンジマーケット in AMU広場

鹿児島中央駅AMU広場において、当金庫の顧客・経営大学の卒業生等を対象に、顧客との対面販売を通じた商品のPR販売や、従業員の「売る気と売る技術」を磨くとともに、顧客の反応を肌で感じる場を提供しております。



かしん トップマネージメント大学

当金庫では、かねてより地域密着型金融の取り組みを積極的に推進しているところですが、お取引先法人企業経営者の人材育成の一助として「かしんトップマネージメント大学」を平成22年から開講しております。



商談会への出展支援

本県食品関連産業の振興を図るため、県内生産者・食品加工事業者の方々に、食品を首都圏や県内外に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会を、県内7金融機関で構成する鹿児島県アグリ&フード金融協議会の一員として開催し、ビジネスマッチングの支援を行っております。

昨年度の主な商談会

- (1) 南の逸品商談会(東京都) 平成26年9月
- (2) かごしまの逸品商談会(鹿児島市) 平成27年1月



かしん経営者フォーラム

参加企業の成長・発展と人材育成を目的として経営学を学び、大いなる事業繁栄と地域の活性化を目指し、平成25年7月に開講いたしました。



「つなぐ力の発揮」 かしんの地域貢献活動

地域の活性化を図るため、地域貢献として「かしんの杜」(総合人材育成構想)活動を行っております。

① 経営の杜

かしん経営大学

～「まち・ひと・しごと創生総合戦略」への取り組み～

平成27年3月21日(土)にかしん経営大学第18期卒業式が開催され、26年度に学んだ成果として、各グループから独自性のある事業計画案が発表されました。当大学は平成8年から開講しており、かしんの杜(総合人材育成構想)における経営の杜の一環として、「経営戦略や企業発展を目指すための勉強をしたい」という声にお応えするために開講した、1年間で集中して学べるスクール形式の講座です。

27年度からは、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取り組みとして「かしん経営大学公開講座」を開催します。18年間蓄積されたアイデアを、各自治体・地域住民に向けて、総合戦略策定の契機となるように、具体的プロジェクトの提案を計画しています。



かしんの杜

① 経営の杜

- ① かしん経営大学
- ② かしんビジネスチャレンジプラザ
- ③ かしんトップマネージメント大学
- ④ かしん経営者フォーラム
- ⑤ かしん経営相談室

② 音楽の杜

- ① チャリティー演奏会
- ② 各種ミニコンサート
- ③ 南日本音楽コンクール協賛

③ 教育の杜

- ① かしん「こども信用金庫」教室
- ② かしんアイホールセミナー
- ③ 硬筆コンクール協賛

④ スポーツの杜

- ① かしんカップ少年サッカー大会
- ② かしん旗少年剣道大会
- ③ 各種スポーツ大会主催

⑤ 緑の杜

- ① 植樹による「かしんの森」活動
- ② 各種エコ活動

⑥ その他

- ① 各地域での清掃活動
- ② 献血活動

③ 教育の杜

かしんアイホールセミナー

皆さまの暮らしに役立てていただくことを目的として、平成23年から「かしんアイホールセミナー」を定期開催しております。本セミナーでは、年金・医療のほか国内情勢に応じた身近なテーマを取り上げ、毎回ご好評を得ております。

これまでのセミナーでは、メディポリス医学研究財団永田理事長による「がん」に関するセミナーや税制改正点を踏まえ相続の全体像を分かりやすく解説した「大増税事態に備える 相続対策セミナー」、就職予定の高校生や新社会人の方々を対象に、元KTSアナウンサー中村朋美様による「ビジネスマナー&コミュニケーション力」などのテーマで開催しました。

また今後は「マイナンバー対策」など、多くの方が興味を持たれている分野をテーマにアイホールセミナーを開催していきます。



硬筆コンクール協賛

平成27年8月2日、当金庫が特別協賛している「第26回KKB硬筆コンクール」の表彰式が開催されました。硬筆コンクールは、文字を正しく、整えて、丁寧に書くことを大切にする心を育み、文字文化の振興と発展に寄与することを目的としています。

今回は、県内外の学校や書道教室等から5,400点を超える応募があり、出展者の日々の研鑽と指導者の熱意が強く感じられる作品ばかりでした。表彰式では、4名の方々に鹿児島信用金庫賞の表彰をいたしました。



④ スポーツの杜

かしんカップ少年サッカー大会

サッカーを通じて、参加チーム相互の親睦と少年の健全育成を図り、あわせてサッカーの普及ならびに技術の向上を目的として、平成18年からかしんカップ少年サッカー大会を開催しております。

第8回大会は、平成27年3月14日・15日の日程で鹿児島県吹上浜公園において開催いたしました。大会には68チーム・1,000名を超える小学生が参加し、熱戦が繰り広げられました。



かしん旗少年剣道大会

剣道を修行する青少年の気力・体力・技術の向上を図り、相互の親睦を深め、将来の郷土を担う青少年の健全育成を目的に平成24年からかしん旗少年剣道大会を実施しています。

平成26年11月9日、伊集院町総合体育館において第3回大会を開催し、53チーム・350名の少年剣士が集い、はつらつとした元気のある試合が繰り広げられました。



かしん経営相談室

当金庫は、地域創生・活性化の支援と取引先の経営力強化のため、外部専門機関等と連携し、「かしん経営相談室」を無料で開設しております。経営についてお悩みの方は、ぜひご相談ください。

- 日時** 随時
- 会場** かしんアイホールビル2階、お取引営業店
- 対象** 当金庫取引先の法人企業経営者、個人事業者及び創業予定者
- 相談** 予約制とし、事前に経営相談申込書を頂いたうえでご相談に応じます。(1回の相談時間：原則2時間)
- 内容** ①経営全般の相談 ②創業・新事業相談 ③相続・事業承継相談 ④税務相談 ⑤その他
- 相談員** 株式会社 アセットパートナーズ南九州 税理士法人 鹿児島さくら会計



② 音楽の杜

かしんチャリティー演奏会の開催

当金庫は、社会貢献活動の一環として、毎年チャリティー演奏会を開催しています。26年度は、10月4日(土)に市民文化ホール(第二)で開催しました。ステージでは、当金庫吹奏楽部・舞踊部の出演に加え、南日本音楽コンクール弦楽部門審査員を務めるバイオリン「田中愛」さん、第8回日本クラシック音楽コンクールピアノ部門全国大会入選の「福重真紀」さんなど、素晴らしい演奏が披露されました。

皆さまから寄せられました慈善会員券の売上金と寄付金の浄財は、全額社会福祉事業等へ寄付いたしました。皆さまの善意に深く感謝申し上げます。



南日本音楽コンクール協賛

平成26年12月7日、当金庫が特別協賛している「第63回南日本音楽コンクール」の表彰式が開催されました。南日本音楽コンクールの歴史は半世紀以上におよび、ピアノ、管打楽、弦楽、木管、金管、声楽、作曲の7部門に対して参加者は小学生から大学生・一般までと幅広く、県内の若手音楽家の登竜門として大きな期待を担っています。

今回は7部門に108名が出場し、予選・本選を経て優秀賞が13名選ばれ、鹿児島信用金庫賞は声楽部門から出場した一般の方が受賞されました。



地方創生への取組み

枕崎の鰹節をフランスへ
MAKURAZAKI KATSUOBUSHI

「枕崎の鰹節」工場を
フランス・ヨーロッパで
建設

「だし」を効かせる和食の良さが世界的に認められる中、日本の伝統的な「和食」を世界へ発信するユニークな事業として、注目を集めています。

枕崎市内のかつお節製造業者10社による出資で、株式会社枕崎フランス鰹節代表取締役 大石克彦を設立しました。同社はフランス西部、ブルターニュ地方にあるコンカルノー市に鰹節製造工場を建設する計画で、この秋にも着工し、来年春頃には、試作品を作りたいとしています。

和食が注目される中、かつお節はヨーロッパでも一定の需要が見込めると期待さ

れています。しかし、水揚げから製造までの過程における衛生管理等、かつお節がフランスの加盟するEUの食品輸入の基準を満たさず、日本からの輸出はできない状況にあり現地で生産するプロジェクトが進められたものです。

販売市場は、仏、独、英を中心としたEU圏にある日本食レストラン約8000店を手始めに、地元大手スーパーやフランス料理レストランにも販路を拡大していく方針とのことです。

このプロジェクトには枕崎市も大きな関心を寄せており、地方創生関連の交付金を活用し、現地へ調査のため視察団を送り込んでおります。又、単に枕崎の鰹節をヨーロッパへ広めるとだけでなく、鹿児島や日本の食文化を世界に発信できる契機と捉え、お茶を始めとする鹿児島の特産品を今後ヨーロッパ市場へ売り出す足掛かりにしたいとの意図もあります。

建設については、当金庫を含めた地域金融機関が協調し、積極的に支援していくものであり、地場産業の活力を高めることと新たな雇用の創出を計り、地域活性化に繋がるものとして期待されております。

世界で最も厳しい食品衛生基準の欧州に、鰹節を輸出することはできない。「輸出ができないなら、現地でする」として、「本物のだし文化を広めよう」として始まった枕崎フランス鰹節プロジェクトは、フランス大使館をも動かし、フランスへの投資や進出企業を支援する対仏投資庁(AFFI)、仏ブルターニ

枕崎鰹節のフランスから始まる新たなストーリーは、鰹節からmakurazakikatsubushinotomatte世界へ広がり料理の味のスタンダードになる日もそう遠くないのかもしれない。

本物の「だし」文化を
世界に広める

鹿児島枕崎の鰹節が世界へ今まさに飛び立とうとしている。和食がユネスコ無形文化遺産に登録され世界では日本食ブームで湧いている。和食の基本は「だし」にあるといっても過言ではない。

そんな中、昨年フランス・カンブルメル市で開催された食の祭典に「本場の本物」に認定されている枕崎の最高級鰹節「本枯れ節」も紹介する機会を得た。

枕崎水産加工業協同組合の西村組合長と、今回設立された株式会社枕崎フランス鰹節の代表を務める大石社長は、鰹節の素晴らしさが世界に通じること、現地での日本料理の多くに「だし」が使われていない現状を知る。

世界で最も厳しい食品衛生基準の欧州に、鰹節を輸出することはできない。「輸出ができないなら、現地でする」として始まった枕崎フランス鰹節プロジェクトは、フランス大使館をも動かし、フランスへの投資や進出企業を支援する対仏投資庁(AFFI)、仏ブルターニ



ブルターニュ地方
CONCARNEAU
コンカルノー市



MAKURAZAKI
枕崎市



地方開発局と波及し、今回進出を決めたコンカルノー市へと繋がる。

本年度9月によいよコンカルノー市で鰹節工場の建設が始まる。来年には本格的に稼働できるよう着々と準備を進めており、今から始まる夢の第二歩がよいよフランスで動き出す。

世界の食品基準codexをクリアした枕崎の鰹節。

「今までこの国際基準のなかで、鰹節はdried bonitoと明記されていましたが、初めてkatsubushi

shiと明記され非常に嬉しく思っています。私達が今回フランスへ進出するのにあたり、様々な困難を乗り越え認められた証だと思っています。」

そう語るのは、枕崎水産加工業協同組合の小湊芳洋さん。鰹節を生産する場合、燻す段階で日本では薪で燻すのが通常である。しかし、フランスでは規制上、火の使用ができず電気を使用しなければならぬ。進出にあたりこちらも味、質共に納得できるものができクリアしている。また鰹節でのクリアすべき問題だけでなく、工場の建築設備、現地での雇用など、二つクリアしていかなければならない。しかし、そんな課題も大きな夢への表現に向けて、形になっていく事への楽しみの一つとなり、後に続く若い世代のために枕崎鰹節を海外へ広めていく道を拓いていきたいという思いもある。

「フランスの食は、和食よりも先にユネスコの無形文化遺産に登録され、食への関心と理解は深く、影響力も大きい。そのフランスで鰹節を作り、欧州に広げていく。そこに意味があり、これは枕崎フランス鰹節の全員の思いです。来年工場完成後すぐに鰹節製造に入る予定です。そして枕崎の鰹節の中でも、最高級品の「本枯れ節」を現地フランスで製造していきたいと考えています。」

フランスの環境でできるカビや製法も試行錯誤を重ねながら挑戦していきたい。そんな夢も実現に向けて考えています。」

枕崎フランス鰹節の社長大石克彦さんは、日本とは違う環境の中で挑戦する難しさを語りながらも、目を輝かせながら語る。



CONCARNEAU
コンカルノー市



MAKURAZAKI
枕崎市





◎目的

- ・会員の資質向上・福祉の増進及び会員相互の親睦と友愛強調を図り、事業の健全経営を図る。
- ・金庫の事業進展に積極的に協力する。

◎活動内容

- ・各界講師・金庫役員等による講演会
- ・会員相互並びに金庫との情報交換や懇談会
- ・経営幹部のための諸研修会の開催
- ・ビジネスマッチング
- ・ゴルフコンペやその他の親睦会 など

かしんハッピー会

当金庫では、早くからお取引先との組織作りに力を入れております。

昭和38年11月、鹿児島信用金庫本店新築前に若手経営者の有志22名が将来の鹿児島の中核となるべく、また、当金庫の強力な推進母体となるべく、お互いの研鑽努力を誓いあって「かしんハッピー会」をスタートしました。

その後、会員数も増加し、「会員の資質向上を図る場」「異業種交流の場」「会員相互間の親睦と連携を深める場」として全営業店単位で組織化、平成25年11月に設立50周年を迎え、現在は1,400名を超える会員で活動を行っております。

また講演会では毎回600名を超える参加者のもとに各界の著名な講師陣による講演会を開催しており、皆さまから好評をいただいております。

～これまでの講師陣～

- 野球解説者・スポーツコメンテーター 広澤 克己 氏
- 大相撲行司 第36代 木村 庄之助 氏
- 政治ジャーナリスト 後藤 謙次 氏 など

当金庫はこれからも会員の皆様を大事にして、さらに育てていきたいと考えています。
是非、お近くの「かしん」までお問合せください。



KYC (鹿児島信用金庫青年クラブ)

次世代を担う若手経営者が、これから学びかつ進むべき道をお互いの連携の中で求め、鹿児島に寄与することをスローガンとして、昭和49年に発足した異業種交流会であり、原則として50歳未満の会員をもって構成されています。

おもな活動内容としては、例会、ボランティア活動、講演会、視察旅行、宿泊交流会等で会員自身による自主的な計画のもとで活動しています。

アイホールビル

平成23年5月に、当金庫の90周年事業の一環として

「かしんアイホールビル(鹿児島信用金庫高見馬場支店)」をオープンいたしました。

「アイホールビル」の名称は、ビルの外観デザインが

「i」の形にみえることや、「地域への情報(Information)」

発信の拠点をめざし、地域の方々との「出会い」と

「ふれあい」を大切にして、皆様の幸せに願いを込めた「愛」を象徴したものです。

「アイホール」は、「都心の緑」を意識した空中庭園や環境に

配慮したエゴ店舗で、各種研修会や展示会の開催が可能

なギャラリー・サロン・ホールを備え、会員の皆様の

「コミュニティスペース」としてご利用いただけますので、

ご利用の際にはお近くの「かしん」へお問合せください。



6F かしんアイホール

かしんアイホールセミナーやミニコンサートなどを実施しています。

5F 空中庭園

4F かしんアイサロン・多目的室

コミュニティスペースとしてご利用できるアイサロン・各種研修等で利用できる多目的室をご用意しております。

3F かしんアイギャラリー

写真展などの展示会場としてご利用できます。

2F かしんアイプラザ(ローンセンター)

ローン相談や経営相談などお客様のさまざまな御相談に応じることができるフロアとなっております。

- ローン土曜相談会(毎月第3土曜日9:30~17:00)
平日にお仕事等で来店できない方々へ土曜ローン相談会を実施しております。
(来店された方には金利優遇のポイントサービスの特典もあります)

- かしん経営相談室(随時 事前予約)
経営者・創業予定者向けに経営全般から創業・相続・事業承継など様々な御相談に応じます。
(相談員:(株)アセットパートナーズ南九州・税理士法人 さくら会計)

1F 鹿児島信用金庫 高見馬場支店